

新町小学校だより

～かしこく ころろゆたかに

たくましく 生きる新町の子～

第1号

令和3年4月9日

津市立新町小学校

Tel 059-228-5125

マスクの中の笑顔のために！

3月下旬、新聞で下のコラムを見つけました。（令和3年3月26日 中日新聞より）

マスクなしで人に会えなくなって久しい。本年度、私は幼稚園のPTA会長を務めた。しかし、昨年4月のPTA総会も行事も全て中止になり、役員全員と顔を合わせたのは6月に入ってからだった。ほとんどの役員と初対面だった私は、マスク姿の人たちを前に、とても緊張したのを覚えている。その後、七夕や運動会の飾りの制作のために数回集まり、作業は和やかに進んだが、マスク一枚隔てられていることで、どこか寂しさを感じていた。

昨年十月の運動会は規模は縮小されたが、無事に開催され、終了後、役員で作った大きな飾りの前で集合写真を撮った。その瞬間だけはマスクを外して、満面の笑みで。

後日、その写真を見て私は驚いた。みんな、こんなすてきな笑顔をしていたなんて。マスクをしていても笑顔であることは伝わってはいたけれど、印象がまるで違うと思った。

今、幼稚園でも学校でも街でも、こんなにすてきな笑顔がマスクで隠れてしまっていると思うと、残念で仕方がない。本年度初めて出会った先生や友だちの顔を、よく知らないままの子どもたちもたくさんいるんだろな、と思うと切なくなる。一日も早く、マスクなしで笑い合える日が来ることを待ちわびている。



私も全く同じ思いです。昨年度は子どもたちに一年中マスク着用を強いる学校生活でした。でも、運動会や学習発表会、たてわり集会や6年生を送る会などで、ちらりと見える子どもたちの顔は、満面の笑顔ばかり。マスクがなければ、そしてコロナがなければ、きっとたくさんの笑顔を見ることができたと思うと残念でなりません。これからもマスク生活が続きますが、始業式の日、私から次のような話をしました。

「校長先生は、今、怒っているのでしょうか？笑っているのでしょうか？マスクをしたままだと分かりにくいですね。だから、今日から校長先生は、みんなといっぱいお話をしたいと思います。お話をするのが苦手な人は、あのね帳や日記、お手紙でもいいです。自分の気持ちを、先生や周りのお友だちに伝えましょう。そして特に、新しくお友だちになった人に話しかけましょう。その人とお話をしたら、その人が笑っているのか、怒っているのか、泣いているのか、落ち込んでいるのかが分かります。今日から、たくさんの人とお話ができるといいですね。」

すると、翌日の水曜日、朝の登校の時や休み時間に、たくさん子どもたちがいっぱいお話をしてくれました。「私の担任の先生はイケメンだよ！」「ぼくの好きなお寿司はね、マグロ！」「校長先生、髪の毛切った？ 似合ってますよ。」

本年度も、教職員一同、力を合わせて、子どもたちが「コロナ禍でも楽しかった！」と思える一年となるよう、精一杯取り組みますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

校長 松本 幸也

